

2019年11月24日 日本基督教団 八ヶ岳伝道所 主日礼拝 NO. 1095

聖書 創世記 37:2~4/ヘブライ人への手紙 11:21~22

説教 『夢見るヨセフの着物』 (長崎 哲夫 牧師)

創世記は「ただ一人の、天地の造り主なる神」(1:1)を明らかにした。この神はいわゆる「一神教の三つ子」と言われるユダヤ教・キリスト教・イスラム教の世界の三大宗教を生んだ。

現在世界の人口は70億超として、内キリスト教3.12割、イスラム教2.41割、ユダヤ教0.02割、計5.55割の人が三宗教に属し(2015, PewResearchCenter)、キリスト教徒はローマカトリック12億5千万人・正教会2億7千万人・プロテスタント9億人(2014, Wikipedia)だ。

ユダヤ教はA. D. 90にはヤムニアで今日のヘブル語聖書を完成した後、創世記以下最初の五巻を神の教え(トーラー)とし248律法(人骨)を子らの教え、365(年間日数)の禁令を加えて計613の教えを学ぶ。

キリスト教はカルタゴ会議(397)で成立した新約聖書を其処に加えて正典とし、キリストの福音の光を当てて読む。イスラム(回教)は610年頃唯一神アッラーを信じ、モハメッド經典コーランを読む。

創世記は、アダム以来①創造物語(1:1-11:32)も含め、②アブラハム・イサク(12:1-25:18)、③ヤコブ(25:10-36:43)と④ヨセフ(37:1-50:26)の族長物語等四部構成で成る。

ヨセフ物語は①創世記を出エジプト記へ橋渡し(出エ 1:6)、②父ヤコブ共通に子と父とが絡む「着物」が家族不和のもとを作り、③此処には、神が前面に登場せず、「夢」解きをするヨセフの人間性を表面化した文学作品で、登場人物の会話や出来事の背後に神の摂理を見せ、神は直接介入はしないが隠れた配剤が人を神に統御させている。

さて、ヨセフ物語の冒頭(37:1)ラケルとヤコブの子ヨセフは、12人の息子の一人なのに父はヨセフのみ「裾の長い晴れ着」(37:3)を着せ偏愛する。更にヨセフは「夢」で父母兄弟が地面にひれ伏して自分に頭を下げたと言って兄弟に怨まれ、父はそれを胸に治めた(ルカ 2:51)。

兄たちがシケムで父の羊の群れを追った時、憎さ余ってヨセフ殺害を企て、ヨセフは晴れ着をはぎ取られ、水のない穴に落とされる。彼らは、エジプト下りのイシュマエル人の隊商にヨセフを売る相談中、ミディアン人の商人は穴から彼を引き上げ、銀20枚でイシュマエル人に売り、ヨセフはエジプトに連れられて行ってしまう。

既に空虚の穴を発見した兄ルベンは自分の衣を引き裂いて嘆き、兄弟に報告すると彼らはヨセフの着物を雄山羊の血に浸し、父のもとへ届けるとその嘆きは一通りでなく、父は自分の衣を裂き、粗布を腰に纏い幾日も嘆き悲しみ、慰められることを拒んだ。

その後、ヨセフ物語は「着物」を巡って兄ユダのタマル事件(38)やファラオの宮廷役人ポティファル事件(39)を挟み、ファラオの夢解きをしたヨセフは牢獄番からやがて王の印章の指輪を嵌め、「亜麻布の衣」を着、金の首飾りを纏う者=宰相と成る。

其処で飢饉に再三見舞われるカナンの兄らと父との邂逅があるものの、その結末はもう一度ヤコブ物語再現かのような兄弟(12部族の祖)への祝福、ヨセフの兄弟との関係修復、ヤコブの死と埋葬まで行き着くが、ヨセフの死は同様ではあるがヨシュア 24:32でも明らかにされ、最後まで人間礼賛は赦されてはいない。